

在宅復帰助ける都心の回復期リハ

⑬⑥ 五反田リハビリテーション病院 (東京都品川区)



場所は交通の便の良い五反田駅の近く

JR山手線、東急池上線、都営浅草線と3線が利用できる五反田駅から徒歩8分、高層のオフィスビルが並ぶ一角に五反田リハビリテーション病院はある。10階建てのビルは、同病院の運営母体である一般社団法人「巨樹の会」が、テナウンの旧本社ビルにリノベーション(既存の建物に大規模な改修工事を行い、用途や機能を変更)を施して、10月に開院した。

ここは回復期リハビリテーション医療に特化した完全入院型の病院で、24時間、365日体制でリハビリを提供している。回復期リハ病院は、急性期

の治療を受け、発症や手術から1~2か月後の回復期の患者に対し、集中的なリハビリを行い、低下した機能の回復を目指す病棟を備えている。

都内の回復期リハビリテーション病棟の病床数は、10万人当たり約40床(2015年3月)で、全国平均(約52床)を下回っている。そこで、首都圏を中心に回復期リハ病院を積極的に展開している巨樹の会が、都内5番目の病院として開院した。

病床数は204床で、医師や看護師をはじめ、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士(3士合わせて約140人、今後増員予定)、ソーシャルワーカー、



清潔で明るい雰囲気の「ウェルカム・ホール」



広々としたダイニング(左)とスタッフステーション(右)



ビジネスでよく使われる椅子も置かれ、よりグレードの高い特別室



開放感ある大浴場。利用時にはスタッフが患者に付く



社会復帰後に運転を行う人のための「運転シミュレーション室」



果物や野菜も育てられる憩いとリハビリの場「屋上リハビリガーデン」

薬剤師、管理栄養士らがチーム医療を提供。なるべく日常生活に近いリハビリメニューをプランに組み込み、患者の離床を促している。

内装は、高級感を醸し出しながら、明るい色調になっている。体の回復はもちろんだが、在宅復帰に向けて、前向きな心の準備を整えてもらうためだ。

「ウェルカム・ホール」と称するロビーには、清潔感あふれる真っ白なソファや自動演奏ピアノなどが置かれている。病棟は間接照明を使い、落ち着いたイメージを演出する一方で、床面にはオレンジ色を大胆に使うなどメリハリが利いている。

「機能訓練室」の一角には自宅と同じように設計された「シミュレーションルーム」が設けられ、在宅復帰を目指した実践的なリハビリを行っている。見晴らしが良く、緑豊かな「屋上リハビリガーデン」では、患者は精神的にリフレッシュできるだけでなく、リハビリ用に設置された石畳や砂利道、段差の異なる階段を使って、外出に備えた訓練も受けている。

布施健太郎事務長は「患者様に早く在宅復帰してもらうことが何よりの願い。開院したばかりだが、良質な医療を提供し続けることで、地域の信頼を得ることにつながれば、と考えている」と話す。